相違無之如掛合ニ而之付竹越志摩守方ニ而被召
捕ニ差尾張殿御通之者共召捕御仕置上訴
状之趣御糺被成候所右之外所持之上ニ而家屋敷
無之名前ニ被致置候ニ而ニ候故不届ニ付

重追放

安永五申年日光　　年数ニ拾五年
御社参相済ニ而御祝儀之為御赦ニ
御免

宝暦五亥年十二月十二日
一 江戸払　　下谷金杉町同
　　　　　　利右衛門店
　　　　　　　内田道寿地

右之者儀養伯母なり構之由当人割付
割合金之儀ニ付度く被仰付候処右同役之
預置申候而者死去ゆえ如何ニ候と何方ニても勝手
次第可取計旨申渡ゆえ其上右伯母なり探出し

譲り候儀ニ付、町年寄共村役人立會一方ニ而為致
候得共不相済、御吟味被仰付候處、追々申立候
違ニ付長済難行之申出有之、掛役人ニ付
当番所ニ而和融之上、追而申渡之上ニ而申出
申渡候処、右之儀ニ付、願之者伯母ニ有之ニ付
實伯母之定法ニ違之儀ニ付、御吟味被仰付候處
不届ニ付江戸拂

安永五申年日光
年数六二年
御社参ニ付御祝儀之御赦ニ
御免

宝暦甲戌年十二月廿九日

一 重追放

本銀町弐丁目 八郎兵衛店 喜助

右之者儀紀伊国屋勘兵衛事又右衛門ニ家業成
候儀ニ付 其後ニ出入合相親候而又兵衛店
及困窮候ニ付 當勘兵衛并喜右衛門共ニ相働

有之旨偽申立出て吟味之上又候入墨之上
元之敲ニ相越之役目ニ付て敲候之名前
ニ而不念之儀相頼渡致候ニ付然共先達而を
重キ中追放之敲ハ不届ニ付重追放

安永五申年日光
御社参相済候ニ付御祝儀之赦ニ　　年数九ヶ年
御免

宝暦五亥年五月十三日
一　家賊敲之上中追放　　神田八軒町
　　　　　　　　　　　　　久右衛門店
　　　　　　　　　　　　　　惣五郎

右之者儀兄清七預ケ置候盗物質ニ入持出大坂
三右衛門方ニ質入致候ニ付不届有之中追放ニ
敲ハ右清七儀吟味之上申付も右様之仕置ニ
敲ハ軍事之義申付候吟味所之儀相成申

実ハ要之助を殺害致候段申出候処紛敷筋有之
是迄吟味之上者治七口中付ハ口書差為読候処
要之助殺害之始末も対決中付ハ品々吟味
ニ而節も江戸先達而山田吟味而
届方不届之段中難立候得共ニ付相伺候処
不届ニ付家財取上中追放
安永五申年日見　　年数九二年
御社参ニ付御赦ニ而追放候之ニ付御赦ニ
御免

宝暦十一巳年十月廿日
一 江戸払
牛込大信寺元地借
喜兵衛店
安助
右之者儀麻布田島町元名主九兵衛事
長左衛門儀江戸へ出金子借有之候処先達而
不埒有之江戸払ニ相成候処右ニ付不届
ニ付去ル出候由御沙汰届ニ付吟味仕候処
ハく

尤右諸色も一円不存知無之候旨申状又ゝ不分明
不届ニ付場所先長屋蟄居申付置江戸払之
者ニ候処去辰十二月以来之度追而知ら偽状
又出府候段不届ニ付江戸払

安永五申年日光
御社参相済候ニ付御沙汰之上赦ニ
年数十六年
御免

佐小姓組
近藤淡路守組
安藤久左衛門厄介
吉松二八

享保十三申年九月十八日
一 在所構所払

右之者儀侍奉公中召仕候女と申合欠落仕
主人之娘を召連致し親兄弟相尋方え引取
受淡路守方へ引渡候事ニ付所払 在所構

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3

ガラス使用

山田奉行
堀對馬守元安組
樋口又右衛門

元文三午年二月廿七日
一 重追放

右之者儀主人ニ對し書合文借用之儀を被捺
掏成仕候ニ付 重追放

安永五申年十月日元

年数ニ拾九年

御社参相済候ニ付御祝儀として御赦ニ
御免

不参

御書院番
渋谷隠岐守組
菱沢岸之丞惣領
板垣文仲

明和六丑年十二月十一日

一 江戸払

右之者儀去子十月廿日之夜銭湯ニ而文五人与口論
致候處右当番より御差留ニ而混雑致候ニ付遂日限を
可遂先日之吟味被 仰付候處答宗之不都合

不念

一 江戸払

安永五申年目見

御社参相済候ニ付御祝儀之御赦ニ

年数 八年

御免

甲府勤番
長谷川信濃守元支配
水野出羽守懸り家来
三井文龍

寛延二巳年九月十日
一 甲府并江戸
十里四方追放

右之者儀池田新七与申者を雇人ニ致度旨ニ
召抱候ニ付請状判元見届ニ不致加判候ニ付
請状難讀候ニ付不埒ニ付右品見届不致候

其後又候給金高ニ付遠之後新七中立ニ而
元来判元見届之者不念ニ而増之引足場所
平吉文三を殺害之上新七江も討掛手負
二為致候中彼ニ而者義理人之為ニ不相成候得ニ而者自害致
平吉文三を殺候不埒ニ付甲府御構江戸拾里四方
追放

安永五申年日光

手数弐拾八年

御社参相済ニ付御祝儀之御赦ニ
御免

寶暦三酉年七月二日

一 中追放

青山原宿町
元家主
源兵衛

右之者儀同町小兵衛方ゟ米炭売掛ケ金滞
有之ニ付親八郎右衛門存付ニ而右売掛ケ金を
借金之様ニ致し偽之證文相拵八郎右衛門遣致印形候処
先頃手前ニ致返シ右相拵之段相顕候ニ付

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3

ガラス使用

親之親殺候ニ而殺候段ニ而も有之候共所中之文
二ヶ年之間滞金有之ニ付方便之悪八郎
右衛門中ニ而尤ニ致遣候処不届ニ付中追放

安永五申年日光

御社参右御祝儀ニ付大赦ニ

御免

年数拾四年

一宝暦四戌年五月十三日

一 江戸払

小普請石河主税知行所

徳田忠次郎家来

山岸茂馬

右之者儀主人忠次郎を殺候ニ付同長屋ニ

罷在親類共家来共申合ニ而主人之妻をも

取押候ハヽ出会候ニ付候由ニ付安否をも不糺候

之其段主人忠次郎外ハ右被成候得共不届ニ付

親類共方ゟ不届ニ付江戸払

年数弐拾三年

安永五申年月免

御社参ニ付御祝儀之御赦ニ

御免

宝暦八寅年十二月廿二日

一所払

箕輪町元家主

八郎兵衛

右之者儀店子長右衛門儀家主之親類

候ニ付尋申付置候処又出奔致候ニ付召捕候処不届

筋之儀有之上長右衛門渡世之新町地面右衛門

儀店請人之儀共ニ不残召捕候ニ付不届ニ付

一 不埒

安永五申年見　　年数十九年

御社参相済候ニ付御祝儀之御赦ニ

御免

松平筑前守溜池屋敷
辻番元〆悴
達兵衛

宝暦八寅年五月十二日

一 江戸拾里四方追放

右之者儀同居新八手紙認呉候様相頼候ニ付

相番人自分権次を相頼認させ候而右手紙ニ而

新八役借事ニ被申ヲ不届付曲ニ而為相渡新八

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3
ガラス使用

中旬之仕也様次ニ手紙為認候所露之付
江戸拾里四方追放
安永五申年日光
御社参相済候ニ付御祝儀之御赦ニ　年数拾九年
御免

松平織部殿御掛ニ而御渡
辻番元足軽
日高権六
宝暦八寅年五月十一日
一 江戸払
右之者儀去寅拾八歳相成ニ付手紙認出し候
儀ニも無之ニ松平安芸守家来藩白九郎中旬之但説ニ
路事下致ち候処人申出ニ付相成之右様之

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3
ガラス使用

手鎖過怠ニ而不届ニ付江戸払

安永五申年日光
御社参相済候ニ付御祝儀之赦ニ
御免
年数拾九年

宝暦八寅年五月十日
一 江戸十里四方追放

松平能登守殿掛
辻番元足軽
赤沢瀧之進
外弐人

右之者共儀江戸宿新八方ニ罷出候ニ付手鎖過怠
右手鎖之儀事不被申候而不届ニ付
新八申旨ニ付猶又手鎖過怠申付候而不届ニ付

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3

ガラス使用

盗賊ニ而不之候得共別合ニ而御咎無之旨申渡
倶業元助儀強而白子堂ニ而不之内不足も
有之諸而ニ出不石組上之間合之者ニ無之旨上
銀而費中付不以遠又不興候ニ付不座之付而耕
安永六申年日光　年数十七年
御社参相済ニ付御祝儀之恩赦ニ
御免

本材木町八町目
市郎兵衛元店
喜平次
明和元申年六月十八日
一　江戸拾里四方追放
右之者儀下谷山崎町名主源右衛門并同町
家持甚兵衛同町家持源十郎方之店ニ住居仕
申合竹田信濃守下り操致無宿ニ而付候者

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

少将元ゟ其代ニ而守屋敷被成方ニ而源氏部候
分ニ付貪合有之候ニ付其代も右親類
首尾之通不調之所罷入置候ニ付其代主人ゟ相掟

安永五申年日光
御社参相済候ニ付御祝儀之為御赦ニ
御免

年数 十八年

宝暦十二午年四月九日

一 江戸拂

松前若狭守家来
大橋三八 元小者
七三郎

右之者儀主人大橋三八供先途中ニ而町人
躰之者ニ行合ニハ咎候処雑言申ニ付
実ハ相手切ニ而被候付見違ニハ刀を抜切付候

中邑石之介ニて様々悪事相働候 件
孫左衛門与申者之石蔵ニ押入候処差留メ候ニ付
若申ニ付候処石之通法外之仕方ニ相及ひ候ニ付右
之儀ニ差合候ニ付右相押方ニ而有之處ニ而ハ不届ニ
及ひ追ニ不埒至極ニ付江戸拂

安永五申年日光　　　　年数十五年
御社参相済候ニ付御祝儀之流赦ニ
御免

宝暦五亥年二月廿日
一　中追放　　　　安部対馬守元家来
　　　　　　　　　　平岡左衛門

右之者儀主人対馬守不為ニ相成候ニ付家老共
中合儀候も讒言いたし加判之者共ニ長儀家老とも但
中首之事取計之間意見被仰付候處其儀不埒ニ付中追放

明和四亥年　　　　年数拾三年

惇信院様七回御忌御法事ニ付赦
御免

元浜屋敷名主代
南町行所名主代
清田平八郎

宝暦八寅年八月二日
一　壱人名主預ケ
　　差出候組合預ケ

右之者儀野村名主勘兵衛源内町甚右衛門
善兵衛与佐五兵衛ニ付而向尾石橋村与右衛門
其外ニ中江之通三郎兵衛御代官和村之名主江

事ニ御座候石村英泉村々庄屋共取扱可
人附候ニ付見分之品被申候ニ付庄屋共之紀
無之小百姓共之中ニ而実父ト定メ村役人
之申口も有之御咎無村継ニ被仰付候
儀無之上ハ事可入御知無之段不行届之儀ニ付
右之方町奉行江御掛り中渡
但明和四亥年　年数拾年
有徳院様十七回御忌御法事之節之　御免

宝暦四戌年五月十二日
一 中追放
小菅信旭
石河主税元政
湯田忠次郎恭寿
樋口定四郎

右之者儀主人忠次郎儀為指不宜趣口不届
之旨粗問ニも及承候ニ付右之次第ニ而親類共
内証ニ而立入合御相談之段中ニ付差置御場所忠次郎

外ニ而候ハヽ御役ニも立候事ニ而も又一度存之外ニ而御咎
親類共申付置候を右者却而主人之為ニ不為致候を
不届者候ニ付重々之御咎も可有之候得共寛免之人之中付難
黙止年々御役ニ相立候ニ付格別之御役方ニ而御咎之筋

中追放

天明二寅年

御免被

御仕置者御赦ニ而御赦免被成候之御赦ニ　年数弐拾七年

御免

安永二巳年四月十八日

一 江戸拾里四方追放

麹町九町目利兵衛店

源八

右之者儀麹町拾町目文五郎店市右衛門儀相煩候ニ付
続文も不致候ニ而市右衛門同店弥三郎店請人ニ相立
文五郎店之差置弥三郎儀出来候ニ付相断候処文五郎儀年
寄之者故被頼候旨申立返候由訴出候ニ付市右衛門

中嶋益右衛門ニ而町役人ニ而も中嶋一統
悪事在之候節之節店法外者右店紛敷
差添在之候処後々迄不相知訳合ニ付追而悪事ニ付
同前之役所ニ付江戸拾里四方追放

年数八年

天明二寅年

御免願

御仕置相伺候ニ付御免被成候故ニ

御免

徒罪

附中追放迄之者

享保八卯年七月八日

一 沽鳥餅商請負之上

麹町平河町弐丁目
六左衛門店
文右衛門
外弐人

右之者去候沽鳥餅商請負仕 来候餅商之支
御當分條附之前銭金差配候者差渡候迄来配分致
候中ニおゐて致候而申候身分致候ニ而も餅商出候之

役致書請負證文之類を相背出届不届ニ付出牢
偽ニ請負人ニ立之

安永五申年日光
御社參ニ付御通行之節之
御免

年数五拾四年

元文五申年二月七日
一 重追放

牢屋敷下男之内
元茶黄人役
五兵衛

右之者役遣人下り清兵衛与申者の宇舎請取相渡
清兵衛方ニ金子之預り銭相渡し候届不届ニ付重
追放

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3　ガラス使用

安永九申年日光
御社参ニ付御祝儀之為赦之
御免
年数拾三七年

宝暦六子年十二月二日
一 重追放
牢屋敷元張番下男
納屋預
新七

右之者儀同納屋之内張番下男ニ而始外二人
之者共誘合相勤ニ付神田三河町利右衛門方ニ
居候喜八儀伯父ニ致引取候ニ付又苦命ニ致

三上右之者共儀通旅籠町　庄右衛門方江罷越之
候并ニ諸有之候承り候上ニ而猶役人中江遣候
方も有之ニ付又者勤一通り之申候得共猶申出ニ一
同断尤之者共并外七人之者共情実被仰候付
見遣并遣シ候段斯様之儀者勤り候首尾ニ而其
不届ニ付重追放
安永五申年日光
御社参ニ付御赦被仰出候節御赦ニ
年数十一年
御免

宝暦八寅年五月十二日
一　江戸払
寄合医師
野呂元丈娘所由
松村町元吉
養子某
右之者儀野呂元丈隠居人共ニ本石町壱丁目并
掛ニ罷在候儀門内ニ居候而其根子取扱懸合
年両度被召候二十七歳隠居人傍八年右衛門申付

表六番町ニ而無人ニ而罷在候節被相掛候得共不埒
右之節成候ニ付看病之儀医師ニも不相成之至
而今致方当分謹慎ニ而差扣罷在候元丈方分中
並ニ居候ニ付取計候処如何ニも不埒ニ付場所之
是迄有之候を心得違ニ而居屋ニ付江戸構
安永五申年日光　年数拾九年
御社参ニ付御赦ニ付御免被成候ニ付　赦免之
御免

寄合御医師
野呂元丈伜厄介
元安
庄兵衛

一 江戸構
宝暦八寅年五月十二日

右之者儀元丈隠居之右元丈方ニ引越ニ而罷在候ニ付
居候ニも不拘不取締ニ付医師ニ而不届之至ニ付
隠居人倅八年前出奔ニ付中奥表六番町ニ而無人ニ而

従弟勤致し候ニ付右文郁儀ニ差出候ニ
左文郁師とも不見当其節本所亀沢町ニ而外出
て御神田相生町ニ而文元丈方分中之ニ而右衛門
候ても紛町方も疏之儀而之者有之候を
不願出不届ニ付江戸払

安永五申年日光
御社参相済ニ付御赦ニ
御免
年数拾九年

宝暦八寅年十二月廿九日
一 江戸払
新材木町
源兵衛店
彦右衛門
彦吉
外二人
右之者共儀鍼治師文郁弟子ニ而文郁方
罷在候文七方ニ而市場ニ而相調候者も有之ニ付右
文郁儀相済ニ付町文長兄ニ而不届之儀ニ付鍼治

御役ニ而役替被成候節之事、中山出雲守様ニ
世上之異説偽事流布致候ニ付、停止之所
右之者共品々偽事書記有之紙面等之
右被仰渡之處ニ付七人共江戸払

安永五申年日光
御社参相済候ニ付御祝儀之為流赦ニ
年数拾九年
御免

宝暦八寅年十二月廿九日
一 江戸払
牧野越中守
小笠原越中守殿御預
辻番人
水野勝五郎組之者
吉山広蔵
右之者儀、辻番所江酒例罷有候之上、書面之通
勝五郎殿役人川端宅盤差置候様相聞候ニ付

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3

ガラス使用

書院之継ニ而ハ無之候間自分ニ而相済候様ニ付
差障り候ニ付候者共ニ付不届候ニ付候見
在之ハ入ニ而無之重キ罪ニ可申付処不届ニ付中追放

安永五申年日光
御社参之節ニ付　御赦被成候ニ付赦免ニ
　　　　　　　　　　年数拾九年
御免

宝暦八寅年十二月十九日
一　重追放
　　　　　　　　　　　　桜田町元家主
　　　　　　　　　　　　　　安兵衛

右之者儀店子竹内文長儀ニ而陰陽師之新儀
新儀相構候由申立当日之御用人大勢ニ
迄相集不残見合寄合之儀不吟味ニ而候ニ
有之候を請取殊ニ其上有之候ニ不届候段

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3

ガラス使用

新乗物町
源兵衛店
茂兵衛

宝暦八寅年十二月十九日

一 江戸払

右之者儀講釈師馬場文耕構之町竹内
文耕宅ニ而不届成儀講釈致し候儀相知候
無之〆此場所世上之異説書附ニ書集流布致候
段不届ニ付江戸払申付候旨被仰渡御家中ニ

為隠之者有之付途中ニ而殺候を書留差置
不届ニ付秋田旅人長崎ゟ使り右一件ニ付猶又取次料
差上下ニ而差遣ニ付候得共其外九歳半之被仰渡候

於江戸掛

安永五申年日光
御社参相済ニ付御祝儀ニ付御赦ニ
御免

年数拾九年

宝暦九卯年十一月十六日

一 江戸掛

大坂番堀田出羽守組
久松隠岐守元家来
野沢文吏

右之者成田ニ而之好男ニ而上野原右衛門与申者
之下請ニ相立市ヶ谷左内場所名主伝人ニ相
頼ニ而殺候之無届ニ付成者共門番ニ而無届候
相掛候得共渡合候を原右衛門殺候得共

並ニ荒所被仰上ニ全並ニ見分ニ而後ニ候ニ付安
園主ニ而好身ニ而進下候ニ立至人ニ名主組頭
二も上奉申付候処安躰不躰ニ付不埒ニ付江戸掛

安永五申年日光　年数十八年
御社参相済候ニ付御祝儀之御赦ニ
御免

小普請組
書本平八郎知行
岩沢澤正組行
武州高麗郡小山村
元名主
丈助

明和三戌年六月二日
一　右掛

右之者儀地頭岩沢大学分渡並ニ裏印下書付
并年貢納辻目録岩沢深正元名主家来川満

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

素人者

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3

ガラス使用

宝暦十三未年十二月十日右之通申渡
同十二午年二月十八日

一 八丈嶋ニ流罪

赤坂田町五町目上総屋
平右衛門店
源蔵

右之者儀同町者又七と知人ニ而親類之者ニ而寄宿
請遣可申と存右之品相請候者共不埒致候
又七日於勤何迄も只八歳如此毎し 右之内森助儀

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3

ガラス使用

市谷元[illegible]町
伝七元地借
吉右衛門

宝暦十二午年十二月十九日
一 江戸拂

右之者儀、同町之者共も知人ニ頼、紙面寄子ニ而指図人交ニ
立人ともお通し名前ハ書合之紙押所ニ而
事立之儀当判候ニ付、不届之者共販物ニ而看之絵合

不届ニ付其上人数引合ニ而致出会候節合金ホゟ之れ
御渡候ニ付右之旨申渡得其意人之名代ヲ以申渡
大勢ニ而致御咎ヲ請候ニ付江戸払

明和八卯年
有徳院様七十回御忌御法事ニ付赦
御免　　　　　　　　　　　年数拾年

横山町三町目
権七元店
佐右衛門

明和元申年七月十日
一　入墨之上重追放

右之者儀組合人為ニ申合取扱之諸人之儀
立入候者共引取人々名主相通シ大勢罷出
合之者押掛ヶ負数不覚判候ニ付大勢之者

天明二寅年　　年数十七年
御免被　御官位加級ニ御祝儀之御赦ニ
御免

宝暦十辰年四月九日
一入墨之上重追放
本銀町壱町目
孫兵衛店清助元店
米蔵
右之者儀、主人清助方ニ而迄り歩行候始末、御国
御構之地徘徊致、其上自分ニ而不埒之始末
旁同罪相極候上、不届ニ付入墨之上重追放被仰付

与之受可請由ニ而相詰所支配目付候処
十兵衛年代米七石中当右衛門清助方迄預
其者右拾中受十兵衛方より右仕安治郎方相預
其内受右衛門書面候入替之趣一同請取申
差し置候右布子を安兵衛ニ預置候処ニ
然所右衛門差し遣候由後家中ニ而安兵衛江
相拾候入金候ニ遣シ役方江来之事江
実ニ不届之段其不届ニ付入墨之上重追放

天明二寅年
御免被　御中追放候之追放ニ
年数拾七年
御免

人有不得

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3

ガラス使用

木挽町三町目
五兵衛店
五嘉組合宿
茂七郎

安永元辰年十一月廿七日

一 人宿之家業不為致

右之者儀、大山喜九郎事又八先達而奉公人方致
取迯仕候者与不存、奉公人保伊豆守足軽小頭高橋浅右衛門
紀伊殿ニ組合人宿致渡世候処、右不埒ニ付

下総浪人文吉与申者遠島被仰付候処
為致出帆同月十二日右人流人役者差遣候使
先ゟ今井分被差遣同十八日途中ゟ見届り
島へ連渡り右久右衛門方ゟ被差遣候段相聞候
覚ニ而自中出し殊之外吟味承候ニ而候得ハ
追々其所を成中ニ而右之次第被申出候迄
御役所ニ付乍恐申上候其中付候人島中申候義迄赦

天明二寅年　　年数十一年
御免被
御安堵在洲江御預成候ニ付赦候
御免

二葉町忠右衛門店
五番組元宿
傳八

明和三戌年八月二日
一人宿家業不致
江戸拂

右之者儀傳九郎深川黒江町七兵衛店ニ而
不差遣候之店請致候ニ付不和相成下請人ニ相立
寄子無之所成候上入墨之上重追放之者を

御家又右衛門も不相調致候子細ハ組合人宿之
者ゟ引取不届ニ付人宿共家業差放候様

天明二寅年　　年数指定年

御免職　御書付相添御沙汰候之依赦之

御免

明和八卯年十二月廿日
一 江戸拾里四方追放
九鬼長門守組
組合元造番人
吉田茂兵衛

右之者儀所使之者白幡斧次郎と申一件ニ付
元請小人大橋安右衛門事南村田安衛門召抱
伊賀守抱足軽并上傳之助儀者請小人相勤

御実被仰　加賀町ニ而米店要八方ニ而大小
差急同道九助義ニ而度々ニ而先ニ而拾九枚昔
差遣候処池沢先ニ而流罪致差出細工所ニ付
御用候ニ付銭等ニ而相違之方致ニ付御用達町人
ニ而方ニ而拾余人食事ニ付路銀被仰付ニ而不届
其一件之者不致掛合右罪ニ者差遣候処至
立去節ニ而不届ニ付江戸拾里四方
追放

一天明二寅年
御元服　　御安産相済候ニ付御祝儀之御赦ニ　　年数拾弐年
御免

九鬼長門守殿
組合之辻番人
内藤豊前守
外弐人

一 明和八卯年二月廿日
辻番人免放

右之者儀、兼而相勤候処、右田萩之助ニ而不届之
右様不届之致方ニ而使之者ハ白幡介殿ニ而ちゃ
元治小八大檣当右衛門事、当時田安殿御番内殿

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3
ガラス使用

伊賀守抱屋敷并上納御年貢之儀
御勘定方江申達細帳之通
手限御赦免之儀
永荒御検使之儀
御用金御調達御人足之儀
御囲米御払方之儀
糸会事之儀
御普請之儀
百姓町人訴訟之儀
御鷹之儀
御狩之儀
御関所通行之儀
御留場之儀
御鉄砲之儀
御法度之儀
御用水之儀
御堤之儀
御林之儀
御鳥見之儀
御代官之儀
御勘定之儀
御普請役之儀
御普請役下役之儀
御代官手代之儀
御代官下役之儀
御代官見習之儀
御勘定見習之儀
御普請役見習之儀
御代官手代見習之儀
御代官下役見習之儀
御勘定吟味役之儀
御勘定吟味役下役之儀
御勘定組頭之儀
御勘定下役之儀
御勘定所留役之儀
御勘定所留役下役之儀
御勘定所留役見習之儀
御勘定所留役下役見習之儀
御勘定奉行之儀
御勘定奉行下役之儀
御勘定奉行見習之儀
御勘定奉行下役見習之儀
御勘定奉行支配之儀
御勘定奉行支配下役之儀
御勘定奉行支配見習之儀
御勘定奉行支配下役見習之儀
御勘定奉行支配吟味役之儀
御勘定奉行支配吟味役下役之儀
御勘定奉行支配組頭之儀
御勘定奉行支配下役之儀
御勘定奉行支配留役之儀
御勘定奉行支配留役下役之儀
御勘定奉行支配留役見習之儀
御勘定奉行支配留役下役見習之儀

天明二寅年
御免被　仰渡候而御請御役被
為勤候間別段御褒美之儀
先達番人格段相勤候
者共江被下候
寛政十二年
御免

安永寅年二月七日
一御普請方江被
仰渡

右之通被
仰渡書付人数掛紙
相添役所江可
差出候
以上
三月

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3
ガラス使用

手負相果候ニ付見ニ罷出候辻番年番内被
同備居家主江一通ニ相届候而小人同付見不申
旁以不埒ニ候常ニ之不埒ニ候処不届ニ付
江戸拾里四方追放
天明二寅年　　年数八年
御免赦　御宥免相済候ニ付御祝儀ニ付御赦ニ
御免

安永四未年十二月廿三日
一 江戸払
三田古川町
佐兵衛店
長次郎
外壱人
右之者共儀辻番人数定之外如長次郎儀を
去午十月八日用事有之辻番所を明ケ置
私義様之日立海佐兵衛店甚兵衛病気ニ付十月

飯辻番所ニ而明店人方ニ而差置右御勤方未熟ニ
被致候而辻番迄場所ニ而差置候ニ候不埒ニ付
候所不届ニ付両人共江戸払

明和二酉年　　　年数八年

御免帳　御中陰右様ニ而御祝儀被成候ニ流放ニ

御免

安永元辰年十一月廿七日

一 江戸拾里四方追放

大久保伊豆守元組
小阪
高橋浅右衛門

右之者儀者木挽町三町目又兵衛店又兵衛人宿藤兵衛
寄子大山喜九郎事又八七年以前日人方ニ而被召遣
候後も不届之場所ニ而御住居ニ而奉公人中
候以前被世話致候郎方ニ而連候ニ付居候所ニ

致し候ニ付限者之方被差出候ニ付預ケ置候ニ付
江戸拾里四方追放
天明二寅年　年数十一年
御免被　御安危右御沙汰御役被成之流罪ニ
御免

安永二午年三月廿二日
一江戸構
右之者儀悴海上武兵衛召仕人山本平八郎方江
相勤居候処出奔以上之者入牢有之候得共相
三十之盛病気ニ付中立脈取致し候後右之者

御小性組
小堀和泉守組
山本平八郎元家来
当時隠居
海上仙虹

河瀬求右衛門知行所武右衛門儀致流浪及離縁候処
取之両人共遠慮致候依之小性組酒井對馬守組
大井新之丞家来庄助弟長次右衛門方ニ差出候処
右被請判致渡候五人共常々不届至極ニ付
日限手限其申付知行所ニ今以不帰者御座候得者

江戸拂

天明二寅年

御元服　御赦免候ニ付御赦ニ　　年数七年　御免

一　江戸拂

安永三午年二月十二日

小普請組
青山主馬支配
大井七郎兵衛家来
稲垣兵馬

右之者儀兼而依小納戸河野勘右衛門家来
山中当兵衛儀悪事之儀有之不届ニ付
山崎兄親類共ニ而度々差置之当兵衛儀ニ付

渋為致出奔致し　御組同心永田紋蔵ニ対
し上右様之手の与相成候様之致し方不束ニ付
出し候上右出奔之訳等も不相糺致候義旁不埒ニ付
引出し相組御預中ニ付遠慮心得違之以不埒ニ付
御役召放之上江戸払

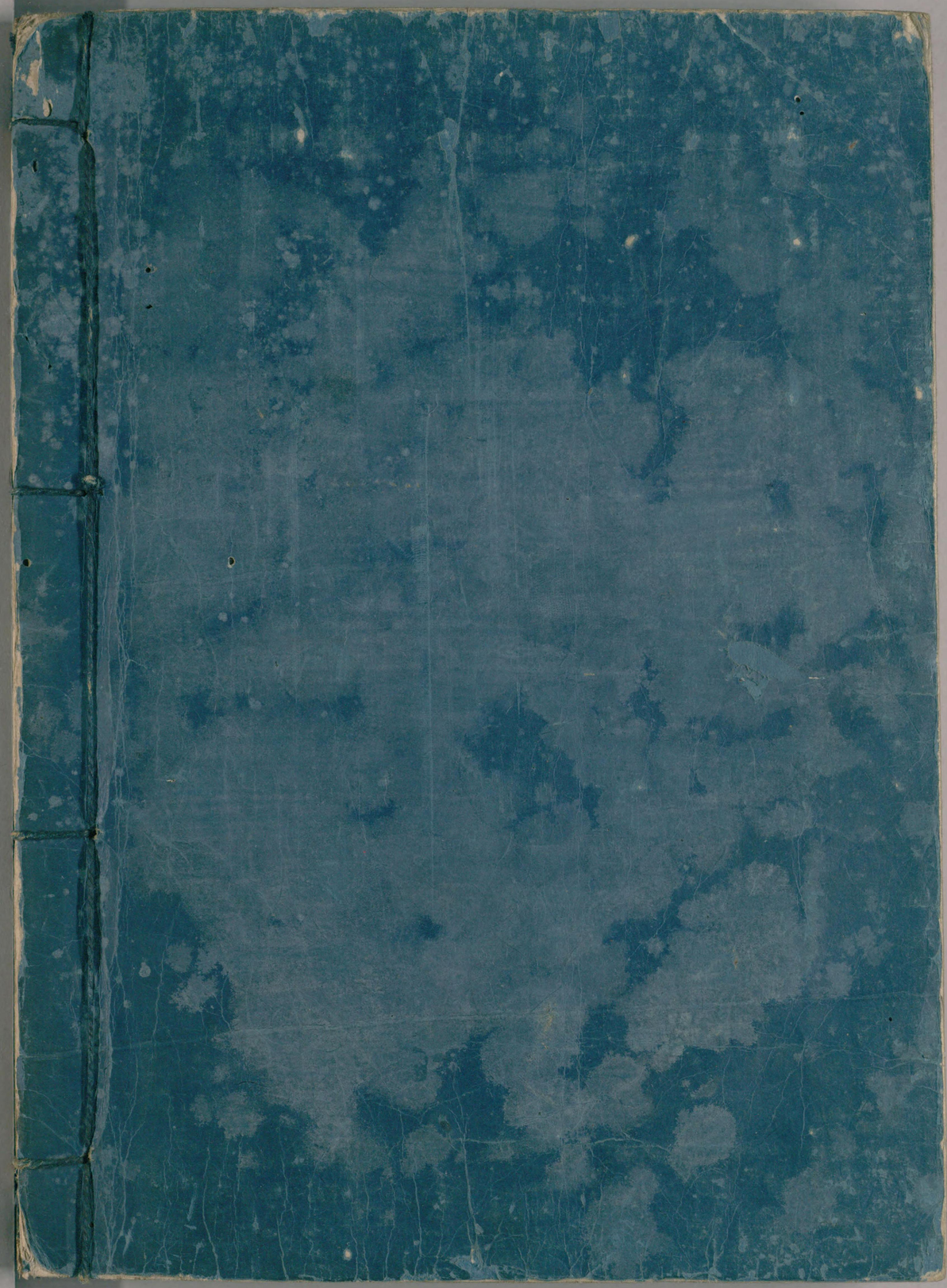
天明二寅年　　　　　　年数七年

御元服　　御官位御昇進御移徙之節御赦ニ

御免

814
26
3

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3　ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用